

動詞(どうし) Verb

これだけは覚えよう

- 1 動詞は活用の仕方によって**3種類**に分かれます。
- 2 グループ1の動詞は、ます形、ない形を作るときに、辞書形の最後の u をそれぞれ i、a に変化させ、そこに「ます」「ない」をつけます。

yomu	yomi-masu	yoma-nai
kaku	kaki-masu	kaka-nai

例)

本を読む。

本を読みます。

本を読まない。

手紙を書く。

手紙を書きます。

手紙を書かない。

た形、て形を作る時ときには、辞書形の最後の u を含む音節を「っ」「ん」「い」「し」に変化させ、そこに「た」「て」をつけます。

yomu	yoN-da	yoN-de
kaku	kai-ta	kai-te

例)

本を読**ん**だ。

本を読**ん**でいます。

本を買**っ**てきた。

手紙を書**い**た。

手紙を書**い**ています。

た形、て形を作る時に、どの動詞がどの形に変化するかは、辞書形の最後の音節が何であるかによって決まります。また、一部の動詞は「た」「て」が「だ」「で」になります(上の「読む」など)が、この現象も、辞書形の最後の音節によって決まります。くわしくは、「普通形の体系」の解説Ⅹの表(た形)と「V て(て形)」の表(て形)を見てください。

- 3 グループ2の動詞は、辞書形がすべて-iru、-eru という形になっています。(ただし、-iru、-eru で終わるグループ1の動詞もあります。)

ます形、ない形を作るときには、辞書形の最後の ru をとって、そこに「ます」「ない」をつけます。

okiru	oki-masu	oki-nai
taberu	tebe-masu	tabe-nai

例)

朝、起きる

朝、起きます。

朝、起きない。

朝、起きた。

まだ、起きている。

ごはんを食べる。

ごはんを食べます。

ごはんを食べない。

ごはんを食べた。

ごはんを食べています。

た形、て形を作るときも同じ方法を取ります。

okiru	oki-ta	oki-te
taberu	tabe-ta	tabe-te

4 グループ3の動詞は「**する**」と「**くる**」です。この2つの動詞は、不規則活用だということでひとまとめにされています。「する」と「くる」の間でも変化の型が異なりますので、それぞれの変化形をいちいち覚えるしかありません。

suru	si-masu	si-nai	si-ta	si-te
kuru	ki-masu	ko-nai	ki-ta	ki-te

例)

勉強をする。

勉強をします。

勉強をしない。

勉強をした。

勉強をしてください。

来る。

来ます。

来(こ)ない。

来(き)た。

来(き)てください。

余裕があれば

5 動詞がどのグループに属するかは、最終的にはいちいち覚えるしかありませんが、形からある程度区別がつきます。

①「する」と「くる」はグループ3の動詞です。

② -ru 以外で終わるものは、グループ1の動詞です。

例：買う、書く、泳ぐ、話す、待つ、死ぬ、遊ぶ、読む

③ -aru, -uru, -oru で終わるものは、グループ1の動詞です。

例：計る、降る、通る

④ -iru, -eru で終わるものの多くは、グループ2の動詞です。

例：見る、起きる、増える、買える

⑤ -iru, -eru で終わるものの中にもグループ1の動詞があります。それらは覚えなければいけません。主に、以下の動詞があります。

例：切る、走る、知る、帰る、入る、減る、要る

形容詞(けいようし) Adjective

これだけは覚えよう

1 形容詞の普通形のまとめ

イ形容詞

	普通形／A い＋N(名詞修飾)				て形	副詞用法の 形
	非過去		過去			
	肯定形	否定形	肯定形	否定形		
暑い	あつい	あつくない	あつかった	あつくなかった	あつくて	あつく
おいしい	おいしい	おいしくない	おいしかった	おいしくなかった	おいしくて	おいしく
痛い	いたい	いたくない	いたかった	いたくなかった	いたくて	いたく
いい	いい	よくない	よかった	よくなかった	よくて	よく

例)

今日は暑かった。

昨日は暑くて大変だった。

これはおいしかった。

これはおいしくて安かった。

けがをしたが、痛くなかった。

あの映画はよかった。

ナ形容詞

	普通形／NA な＋N(名詞修飾)				て形	副詞用法の 形
	非過去		過去			
	肯定形	否定形	肯定形	否定形		
すき	すきだ/ すきな	すきではない	すきだった	すきではなかった	すきで	すきに
きれい	きれいだ / きれいな	きれいではな い	きれいだった	きれいではなか った	きれいで	きれいに
便利	べんりだ / べんりな	べんりではな い	べんりだった	べんりではなか った	べんりで	べんりに
静か	しずかだ / しずかな	しずかではな い	しずかだった	しずかではなか った	しずかで	しずかに

例)

あの人をすきになった。

この花はきれいで安かった。

この道具は便利で安かった。

あのホテルはしずかではなかった。

2 活用形が使われている文型は以下のとおりです。

イ形容詞

	普通形	て形	副詞用法の形
活用形が使われている文型	A い N A い + N A いとおもいます A いとき A いでしょう	A くて	A く V ます A くなります

例)

うつくし*い*花。(A い + N)

うつくし*くて*、安い花。(A くて)

うつくしく咲きます。(A く V ます)

この花はうつくし*くなります*。(A く V ます)

ナ形容詞

	普通形	て形	副詞用法の形
活用形が使われている文型	NA な N NA + N (非過去肯定形は「NA な」を使う) NA とおもいます (非過去肯定形は「NA だ」を使う) NA でしょう (非過去肯定形は「NA だ」の「だ」をとった形) NA なとき	NA で	NA に V ます NA になります

例)

きれいな花。(NA な N)

すきな人。(NA + N)

便利だ。(NA だ)

便利でしょう。(NA で)

静かなとき。(NA なとき)

静かになります。(NA になります)

助数詞(じょすうし) Classifier / Counter words / Counter

これだけは覚えよう

- 1 日本語では、数量を表わすときに、数に助数詞をつけます。
- 2 数えるものが何であるかによって、どの助数詞を使うかが決まっています。助数詞は、数えるものの形や性質をある程度反映しています。

<ものを数える>

	個 数		枚 数	本 数	冊 数	台 数	器に入っ たものの 数
	小さいもの (りんご、 卵、コップ、 時計など)		薄いもの (紙、ハンカ チ、シャツ、 CD、皿など)	細長いもの(えんぴ つ、かさ、バナナな ど)、カセットテー プ、ビデオテープ	本、ノート、 辞書など	乗りもの (自 転車、 自動車な ど)、電気製 品(テレビ、 電話など)	器(コップ やちゃわ んなど)に 入った水 や飲み物 など
	~つ	~個 (こ)	~枚(まい)	~本(ほん、ぽん、 ぼん)	~冊(さつ)	~台(だい)	~杯(はい、 ぱい、 ばい)
1	ひとつ	いっ こ	いちまい	いっぽん	いっさつ	いちだい	いっぱい
2	ふた つ	にこ	にまい	にほん	にさつ	にだい	にはい
3	みつ つ	さん こ	さんまい	さんぽん	さんさつ	さんだい	さんばい
4	よっ つ	よん こ	よんまい	よんほん	よんさつ	よんだい	よんはい
5	いっ つ	ごこ	ごまい	ごほん	ごさつ	ごだい	ごはい
6	むっ つ	ろっ こ	ろくまい	ろっぽん	ろくさつ	ろくだい	ろっぱい
7	なな つ	なな こ	ななまい	ななほん	ななさつ	ななだい	ななはい
8	やっ つ	はっ こ	はちまい	はっぽん	はっさつ	はちだい	はっぱい
9	ここ のつ	きゅ うこ	きゅうまい	きゅうほん	きゅうさつ	きゅうだい	きゅうは い
10	とお	じゅ	じゅうまい	じゅっぽん	じゅっさつ	じゅうだい	じゅっぱ

		っこ					い
?	いく つ	なん こ	なんまい	なんぼん	なんさつ	なんだい	なんばい

<そのほか>

	人 数	動物の数	階 数	回 数	金 額	年 齢	番 号
		犬、猫、魚、鳥、昆虫など					
	～人(り、に ん)	～匹(ひき、びき、びき)	～階(かい、がい)	～回(か い)	～円(え ん)	～歳(さ い)	～番(ば ん)
1	ひとり	いっぴき	いっかい	いっか い	いちえ ん	いっさ い	いちば ん
2	ふたり	にひき	にかい	にかい	にえん	にさい	にばん
3	さんにん	さんびき	さんかい／さんが い	さんか い	さんえん	さんさい	さんばん
4	よにん	よんひき	よんかい	よんか い	よえん	よんさ い	よんば ん
5	ごにん	ごひき	ごかい	ごかい	ごえん	ごさい	ごばん
6	ろくにん	ろっぴき	ろっかい	ろっか い	ろくえ ん	ろくさ い	ろくば ん
7	ななに ん	ななひき	ななかい	ななか い	ななえ ん	ななさ い	ななば ん
8	はちに ん	はっぴき	はちかい／は っかい	はっか い	はちえ ん	はっさ い	はちば ん
9	きゅうに ん	きゅうひき	きゅうかい	きゅうか い	きゅうえ ん	きゅうさ い	きゅうば ん
10	じゅうにん	じゅっぴき	じゅっかい	じゅっか い	じゅうえ ん	じゅっさ い	じゅうば ん
?	なんにん	なんびき	なんがい	なんか い	いくら／ なんえ ん	なんさい ／ いくつ	なんば ん

3 数えるものとその数は以下の語順で示されます。

N	を／が	数＋助数詞
[数えるもの]		

例)

本が 10冊(じゅっさつ)あります。

魚が 5匹(ごひき)います。



(1) あそこにかさが5本あります。

(2) ケーキが7つあります。

(3) A: このボールペンはいくらですか。

B: 100 円です。

(4) 切手を 10 枚とはがきを3枚買います。(構文については「N を V ます」参照)

(5) 先生の机の上に辞書が2冊と雑誌が1冊あります。

4 「～つ」の数え方は、ほかの助数詞と違うので、注意しましょう。11 以上は、「じゅういち、じゅうに、じゅうさん、……」のように数えます。

(6) A: ボールがいくつありますか。

B: 15 あります。

5 数量をたずねるとき、「何枚」「何本」などの疑問詞の代わりに「どのくらい／どのぐらい」を使うことができます。

(7) A: そこにハンカチが何枚ありますか。

B: 3枚あります。

(8) A: そこにハンカチがどのくらいありますか。

B: 30 枚くらいあります。

「どのくらい／どのぐらい」は、正確に答えにくい（と思われる）場合に使います。また、だいたいの数や量を表わす場合には、「数詞+助数詞」の次に「くらい（ぐらい）」をつけます。（「副助詞 X」参照）

6 助数詞のうしろには助詞をつけないようにしましょう。

7 数えるものとその数を言う場合の語順に注意しましょう。たとえば、「みつつみかん」「3 みかん」にならないようにしましょう。

8 数と助数詞によって音が変化するものがあるので、注意しましょう。助数詞の表を参照してください。

9 必要な助数詞を選んで勉強するといいです。

余裕があれば

10 「じゅっこ」「じゅっぽん」「じゅっさつ」「じゅっぱい」「じゅっぴき」「じゅっかい」「じゅっさい」などを、古い言い方では「じっこ」「じっぽん」「じっさつ」などと言います。